

2024年度活動内容の報告

2025年度事業計画の紹介

2025年9月8日

一般社団法人モビリティ・イノベーション・アライアンス事務局

2024年度活動内容の報告

2024年度の活動項目

- ① モビリティ・イノベーション連絡会議における文理融合学術ネットワーク構築・発展
- ② 分野横断型政策や取り組みの検討・提案
- ③ 多様な産学官連携機会を生み出すワンストップ窓口として活動
- ④ 国際会議の企画・運営を通じた国際連携研究の促進
- ⑤ 研究・技術開発を社会の行動変容へつなげる広報活動
- ⑥ 若手人材の育成を狙いとしたイベント等の支援
- ⑦ 法人としての活動体制等の強化

① モビリティ・イノベーション連絡会議における文理融合学術ネットワーク構築・発展

<2024年度活動報告会・交流会の開催>

- 2024年6月27日に、デジタル庁、経済産業省、国土交通省総合政策局、道路局からのオブザーバ参加も含め、計50名の参加を得て2023年度活動報告会・交流会を開催
- 活動報告会後には、交流会（懇親会）も開催し、特別会員各社からの事業紹介、会員同士の個々の意見交換等、有意義なネットワーキングの場を提供



① モビリティ・イノベーション連絡会議における文理融合学術ネットワーク構築・発展

＜モビリティ・イノベーション連絡会議の開催＞

- 2024年7月17日、2025年2月6日に2024年度のモビリティ・イノベーション連絡会議を開催し、本法人が受託しているSIP第3期スマートモビリティプラットフォームの構築の活動に関する情報共有を行うとともに、国際連携の可能性について意見交換を実施



② 分野横断型政策や取り組みの検討・提案

＜スマートモビリティプラットフォームの構築に向けた国際的な研究連携・対外情報発信活動＞

- 2023年度に引き続き「SIP第3期スマートモビリティプラットフォームの構築」事業の「スマートモビリティプラットフォームの構築に向けた国際的な研究連携・対外情報発信活動」を受託し、東京大学モビリティ・イノベーション連携研究機構と共にSIP事業に係る国際連携活動の推進を実施

③ 多様な産学官連携機会を生み出すワンストップ窓口として活動

< 現地研究会の開催 >

- 学会会員：9会員（22名）、特別会員：1会員（7名）、行政・事業者団体等会員：1会員（2名）の参加を得て、2025年2月に現地研究会を催行
- 自動運転レベル4の社会実装に向けた事業性・技術面・社会需要面の課題解決への取り組みとして「塩尻MaaS・自動運転協議会」を設置し、自動運転実証に取り組んでいる塩尻市を訪問し、自動運転バス運行状況を現地で視察・試乗するとともに、塩尻市が運営する、自動運転事業を支える地域DX事業についても施設見学を実施



③ 多様な産学官連携機会を生み出すワンストップ窓口として活動

＜モビリティDXプラットフォーム会員交流イベントの支援＞

- 2025年1月16日、第2回モビリティDXプラットフォーム会員交流イベントトークショー①
「自動運転の社会実装におけた取組」に須田副理事長がモデレータとして登壇
- 海外の自動運転の動向を含め、自動運転の社会実装をどのように捉えているかパネリストの意見を伺うとともに、社会実装に向けてどういう形で進めていくのが良いのか、スタートアップの企業が活躍するにはどのような環境構築が必要か、等につき議論を実施



④ 国際会議の企画・運営を通じた国際連携研究の促進

< 国際連携委員会の定期開催と「Mobility Innovation Week Japan 2024」の企画・運営 >

- SIP-adusにおいて構築された国際連携ネットワークをレガシーとして承継し、また自動運転以外の分野における連携へと拡張すべく、SIP-adus Workshopを継承する「Mobility Innovation Workshop」を中心に、複数の関連する国際会議、技術ツアー等の機会を提供する「Mobility Innovation Week Japan」を企画・運営
- 「Mobility Innovation Week Japan」の企画・運営にあたり、法人内の国際連携委員会にて、委員長の白土委員長をはじめとする有志会員を中心に、国内外関係者との事前調整、登壇依頼等を実施
- 11月11日～15日にわたるプログラムでは、日本における新たなモビリティ導入事例、試験施設の現地視察とともに関係者と議論を行う宿泊型イベント（Breakout Camp）、参加者が一同に会する全体セッション、専門家同士がテーマ別に分かれて集中討議を行う専門家ワークショップ、限定的な参加者による関連会議が実施され、国外からの参加の48名を含む、177名の関係者が参加し、自動運転をはじめとする新たなモビリティについて、それぞれの取り組みの共有、技術面、制度面、社会面など多様な観点からの議論を実施



⑤ 研究・技術開発を社会の行動変容へつなげる広報活動

- 2023年度活動報告書を作成し、2024年6月19日に会員向け専用ページに掲載
- 2024年10月3日、海外にて広くビジネス用SNSとして活用されているLinkedInの本法人ページを開設、LinkedInを活用した広報活動を開始
 - ※2025年9月4日時点で186名のフォロワーを獲得
- 会員向けに11件の「Newsletter」を発行



2024年度活動報告

⑥ 若手人材の育成を狙いとしたイベント等の支援

- モビリティを活用したビジネス・イノベーション・コンテスト (M-BIC) 2024」に対しシルバースポンサーとして支援を実施

⑦ 法人としての活動体制等の強化

- 法人としての体制整備：理事会の開催（3回）、定期社員総会の開催（1回）、事務局員（非常勤）の雇用（1名）
- 委員会活動：国際連携委員会の開催（16回開催）
- 賛助会員の入会受け入れ：賛助会員の入会受付継続、法人リーフレットの更新

- 賛助会員数（2025年9月1日時点）

学術会員（組織）	： 9会員
学術会員（個人）	： 21会員
特別会員（組織）	： 9会員
特別会員（個人）	： 1会員
行政・事業者団体等会員（組織）	： 4会員
賛助会員計	： 44会員

2025年度活動計画の紹介

2025年度活動計画

2025年度の活動目標

- ① モビリティ・イノベーション連絡会議における文理融合学術ネットワークを構築・発展させる
- ② 分野横断型政策や取り組みを検討・提案する
- ③ 多様な産学官連携機会を生み出すワンストップ窓口として活動する
- ④ 国際会議の企画・運営を通じた国際連携研究の促進を図る
- ⑤ 研究・技術開発を社会の行動変容へつなげる広報活動を行う
- ⑥ 若手人材の育成を支援する
- ⑦ 法人としての活動体制等の強化を図る

- ① モビリティ・イノベーション連絡会議における文理融合学術ネットワークを構築・発展
 - 多様な分野の会員拡大に向けた働きかけ
 - モビリティ・イノベーション連絡会議の継続開催（SIP第3期スマートモビリティプラットフォームの構築の施策と併せる形で開催）
 - 委員会活動による文理融合型取り組み研究テーマ、国際連携に関する議論の場づくり

- ② 分野横断型政策や取り組みの検討・提案
 - SIP 第 3 期事業への参画を通じた新モビリティに関する政策、施策に関する情報収集及び会員への情報提供、提言に向けた検討

2025年度活動計画

③ 多様な産学官連携機会を生み出すワンストップ窓口として活動

- 現地視察会の企画・実施

【第3回現地研究会】 2025年10月31日開催予定（別項参照）

【第4回現地研究会】 2026年2月頃開催予定

- 会員向け情報共有イベント、交流会等の開催による産学官連携機会の創出

④ 国際会議の企画・運営を通じた国際連携研究の促進

2025年11月10日-14日に「Mobility Innovation Week Japan 2025」を開催予定



Mobility Innovation Week Japan 2025ウェブサイト

<https://mobilityinnovationalliance.org/mobiweekjapan2025/>

⑤ 研究・技術開発を社会の行動変容へつなげる広報活動

- 各種会議・イベントへの参加を通じた本法人取り組みに関する広報
- 本法人主催イベントに関する報告書作成・公表による情報発信
- 本法人ウェブサイトにおける本法人活動に関する情報発信
- 海外研究機関等との合同ワークショップ等の後援

Supported by
Mobility
Innovation
Alliance Japan

23 APRIL, 2025

1 PM - 5 PM

Room409, Institute of Civil
Engineering,
University of the Philippines

**INTERNATIONAL WORKSHOP
- PUBLIC TRANSPORTATION
AND TRAFFIC SAFETY**

2025年4月、東京大学-フィリピン大学との合同ワークショップの後援

⑥ 若手人材の育成支援

- 総合知による新モビリティ社会の構築に向け、「SIP第3期スマートモビリティプラットフォームの構築」の活動と融合する形での若手研究者の国際人材交流、海外動向調査等の活動支援

⑦ 法人としての活動体制等の強化

- 海外研究機関との国際連携活動の検討
- モビリティ・イノベーション・アライアンス中期ロードマップの策定
- 委員会活動の拡大

東京大学生産技術研究所ITSセミナーシリーズ44

ITSセミナー in 大阪

2025. 10.30 木
14:00-18:00
 (開場 13:30)

グラングリーン大阪 / オンライン
 JAM BASE CONFERENCE 5-2
 JR「大阪駅」より徒歩約7分
<https://jambase-space.com/access/#conference>

自動運転やMaaSに代表される新たなITS技術・デジタル技術を社会実装することで、地域間の連携を育む取り組みが各地で進んでいます。本セミナーでは、その中で期待される取り組みや課題について、多様な関係者で考え、連携する契機となることを狙いとし、東京大学生産技術研究所ITSセンター及び地元産官学関係者による講演・討議を行います。

お申し込みはITSセンターwebサイトで

プログラム ※プログラム・登壇者は予告なく変更する場合があります。

挨拶 中野 公彦 東京大学 生産技術研究所 教授
 同 ハーモニック・モビリティ研究センター センター長
 原 圭史郎 大阪大学 大学院 工学研究科附属フューチャーイノベーションセンター 副センター長・教授
 同 モビリティシステム共同研究講座 センター

第一部 東大からの研究報告

EVへの走行中給電と公道実証実験
 清水 修 東京大学 大学院 工学系研究科 電気系工学専攻 准教授
数理最適化モデリングが描き出す低炭素モビリティ・ビジョン（仮）
 本間 裕大 東京大学 生産技術研究所 准教授
 同 ハーモニック・モビリティ研究センター 副センター長

第二部 地元関係者からの取組紹介

電力インフラ分野におけるフューチャー・デザイン実践
 原 圭史郎 大阪大学 大学院 工学研究科附属フューチャーイノベーションセンター 副センター長・教授
 同 モビリティシステム共同研究講座 センター

モビリティとエネルギー・マネジメント
 芳澤 信哉 大阪大学 大学院 工学研究科 環境エネルギー工学専攻 准教授
 同 モビリティシステム共同研究講座 准教授

モビリティの電動化と交通ネットワーク分析
 坂井 勝哉 大阪大学 大学院 工学研究科 モビリティシステム共同研究講座 特任講師

大阪国道事務所の新たな挑戦
 志々田 武幸 国土交通省 近畿地方整備局 大阪国道事務所長

グループ共通IDデータが導く阪急阪神流TODの未来
 山本 隆弘 阪神電気鉄道株式会社 執行役員
 阪急阪神ホールディングス グループ開発室 DXプロジェクト推進部長
 都市モビリティコンソーシアム 事務局長

第三部 パネルディスカッション

パネラー：原 圭史郎、芳澤 信哉、坂井 勝哉、志々田 武幸、山本 隆弘、本間 裕大
 モデレーター：大口 敬 東京大学 生産技術研究所 教授

挨拶 志々田 武幸 国土交通省 近畿地方整備局 大阪国道事務所長

事前
予約制
参加無料

主催：東京大学 生産技術研究所 ハーモニック・モビリティ研究センター（ITSセンター） **共催**：大阪大学 大学院 工学研究科 モビリティシステム共同研究講座
後援：国土交通省 近畿地方整備局 大阪国道事務所、(公社)土木学会関西支部、(一社)建設コンサルタンツ協会近畿支部、(一社)モビリティイノベーション・アライアンス、都市・モビリティ共創コンソーシアム、東京大学モビリティイノベーション連携研究機構 社会連携研究部門 データインフォームド都市・交通学
お問合せ：東京大学 生産技術研究所 ITSセンター事務局 (seminar@its.iis.u-tokyo.ac.jp)

【第3回現地研究会】

左記イベントの関連として開催

日時：10月31日（金）午前中

場所：阪神電鉄線周辺

内容：駅務オンラインシステム、
運行管理システム、
デジタルチケット等

鉄道のITS関連技術の体験

最大参加人数：調整中

○参加申込

モビリティ・イノベーション・アライアンスからの参加枠の確定に従い、別途メールにてご案内予定。なお、参加人数は相当絞られますので、ご容赦ください。

国際連携に関する活動状況（今年度中間報告）

過年度のMobility Innovation Week Japan登壇者・参加者とのつながりを軸に、MIA側から日本における取組状況やインサイトを発信

■ 国際会議・シンポジウムへの登壇

- Mobility Move 25 @ ベルリン
- EUCAD @ イスプラ
- ITS APフォーラム @ スウォン
- ITS 世界会議 @ アトランタ



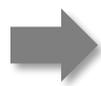
■ 海外研究機関等との意見交換・現地訪問

- DLR（ドイツ航空宇宙センター）
- DB（ドイツ鉄道）
- アーヘン工科大学
- Ruter ※オスロの交通事業者
- フィレンツェ大学
- フィリピン基地転換開発公社



これらの活動（Go and See）から、

- ✔ Mobility Innovation Week Japan 2025のプログラム編成（国際的に関心の高いテーマを設定）
- ✔ Mobility Innovation Week Japan 2025のPR活動及び登壇者・参加者の招へい
- ✔ アライアンスとしてのパートナーシップ協定への足掛かりづくり



国際連携に関する活動状況（今年度中間報告）

国際連携先の地域のさらなる拡大を目指し、特にアジア圏での活動を開始。

■ 海外研究機関等との合同ワークショップ等の後援

- フィリピン大学との合同ワークショップ
 - 日本・フィリピン双方の関心から、「交通安全」と「公共交通」をテーマとして開催
 - フィリピン側は、大学関係者だけではなく、産（デベロッパ）、官（マニラ政府等）からの話題提供もあり、広く交通に関する社会課題や研究状況を共有



今後も、

- ✓ 本取組をきっかけとしたフィリピンをはじめとするアジア圏での連携強化
- ✓ 海外との合同ワークショップの開催を通じた国際連携の芽の発掘と育成、関係づくり

ご清聴ありがとうございました。

一般社団法人モビリティ・イノベーション・アライアンス

ウェブサイト：<https://mobilityinnovationalliance.org/>

お問合せ先： miaj-sec@its.iis.u-tokyo.ac.jp